

科目名	異文化コミュニケーションⅡ						
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n)を参照				
開講期	秋学期	開講学部等	外国語学部	配当年次	2年次	単位数	2単位
教員名	田畑 恒平, 堀川 諭						

授業概要／Course outline

「異文化コミュニケーションⅠ」の学習成果を踏まえ、更なる異文化への理解、関心を深めると共に、それらの背景にある多様性や現状、課題などを複眼的に捉える。特にⅡでは海外から発信される情報（論文、新聞、雑誌、書籍、テレビ番組、インターネットサイトなど）を軸に、異文化コミュニケーションの視点で起こっている事象をミクロの視点で捉えることによって、詳細な検討を行う。加えて、これらの題材を通じて英語教育に必要な読解力、表現力、発信力に更なる磨きをかける。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

講義

- ・アクティブ・ラーニング授業（形態：ディスカッション、ディベート／グループワーク）
グループディスカッションやワークを適宜取り入れます
- ・ICTを活用した授業（形態：遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等））
オンデマンド教材を活用します
- ・実務経験のある教員による授業
この授業はマスメディアでの実務経験がある教員2名が担当します

広告会社14年、放送局4年、コンサルティング11年

授業内容・授業計画／Course description・plan

授業内容・スケジュールは以下の通りである。

第1回 異文化コミュニケーションを学ぶことの意義（担当：田畑恒平）
異文化コミュニケーションを行うために不可欠な要素について解説する。

第2回 非言語メッセージとステレオタイプ、非言語メッセージが伝えるもの（担当：田畑恒平）
コミュニケーションにおいて、非言語メッセージの果たす役割についてワークショップと解説をする。

第3回 沈黙の意味（担当：田畑恒平）
無言、沈黙、黙る事の会話、コミュニケーションの効果についてワークショップと解説をする。

第4回 様々な「時」の捉え方、様々な空間の捉え方（担当：田畑恒平）
空間でコミュニケーションを行う際の基本原理についてワークショップと解説をする。

第5回 「よそ者」と異文化適応、「カルチャー・ショック」（担当：田畑恒平）
異文化接触における問題、の典型であるカルチャー・ショックについて解説する。

第6回 ステレオタイプと異文化接触、内なる「外国人」（担当：田畑恒平）
内なる国際化、多文化共生について解説する。

第7回 異文化接触と解釈（担当：田畑恒平）
相手や自分の行動についての解釈の違いから起こる異文化間の誤解および摩擦について解説する

第8回 「対立」を生み出すもの、「対立」から見えないもの（担当：堀川諭）
異文化との接触が増えたことで生じた対立の原因、また、対立が解けない理由を解説する。

第9回 グローバル化とアイデンティティ（担当：堀川諭）
グローバル化の進展で異文化理解が促される一方、失われる固有文化や伝統・生活習慣もあることを明らかにする。

第10回 メディア・コミュニケーションの様々な作用（担当：堀川諭）
ステレオタイプの固定化など、メディアを通じた異文化理解がもたらす作用を学ぶ。

第11回 現代の映像メディア、通信メディア：（担当：堀川諭）

映像・通信メディアの発達により、異文化理解の方法がどう変わってきたかを解説する。

第12回 文字と活字、メディアと権力（担当：堀川諭）

翻訳されたテキストを通じ、世界の出来事を知るケースは多い。メディアが外国の政治家の発言をどう伝えているかを学ぶ。

第13回 グローバル化と格差社会（担当：堀川諭）

人や物の世界的な移動が容易になり、新たな利益を得る人がある一方で、グローバル化の恩恵と縁のない人も多く、両者の間に一部で格差が生じている。具体例を解説する。

第14回 オルタナティブな世界の構築（担当：田畑恒平）

当講義の全体まとめ。自文化と比較したときの異文化＝オルタナティブの観点で世界をどのように捉えるべきなのかを解説する。

★オンデマンド回 異文化間理解について（担当：田畑恒平）

異文化間における「理解」とは何か？について、映像教材を用いて解説する。

所要時間 動画（30分）ワーク課題（60分）計90分

- ・ 「教員-学生間の対話」：第4～6週のいずれかで実施
- ・ 「学習成果実感調査」：第14週に実施

事前・事後学修／Preparation and assignments

以下の通りの事前学習、事後学習を行って授業に臨むこと

第1回 異文化コミュニケーションを学ぶことの意義（担当：田畑恒平）

【事前学習】当該範囲に関する教員からの指示を元に、授業において自分の考えを発表できるようまとめる。

【事後学習】授業の結果を踏まえて、事前学習で行った自身の考えを再度推敲する。

第2回 非言語メッセージとステレオタイプ、非言語メッセージが伝えるもの（担当：田畑恒平）

【事前学習】moodleにアップする資料を通読の上、コミュニケーションにおける非言語メッセージの果たす役割について自分の考えを発表できるようまとめる。

【事後学習】ワークショップの結果まとめた上で、事前学習の考えを再考する。

第3回 沈黙の意味（担当：田畑恒平）

【事前学習】moodleにアップする資料を通読の上、無言、沈黙、黙る事の会話、コミュニケーションの効果について自分の考えを発表できるようまとめる。

【事後学習】ワークショップの結果まとめた上で、事前学習の考えを再考する。

第4回 様々な「時」の捉え方、様々な空間の捉え方（担当：田畑恒平）

【事前学習】moodleにアップする資料を通読の上、空間でコミュニケーションを行う際の基本原理について自分の考えを発表できるようまとめる。

【事後学習】ワークショップの結果まとめた上で、事前学習の考えを再考する。

第5回 「よそ者」と異文化適応、「カルチャー・ショック」（担当：田畑恒平）

【事前学習】moodleにアップする資料を通読の上、カルチャー・ショックについて自分の考えを発表できるようまとめる。

【事後学習】講義の結果まとめた上で、事前学習の考えを再考する。

第6回 ステレオタイプと異文化接触、内なる「外国人」（担当：田畑恒平）

【事前学習】moodleにアップする資料を通読の上、内なる国際化、多文化共生について自分の考えを発表できるようまとめる。

【事後学習】講義の結果まとめた上で、事前学習の考えを再考する。

第7回 異文化接触と解釈（担当：田畑恒平）

【事前学習】当該範囲に関する教員からの指示を元に、授業において自分の考えを発表できるようまとめる。

【事後学習】授業の結果を踏まえて、事前学習で行った自身の考えを再度推敲する。

第8回 「対立」を生み出すもの、「対立」から見えないもの（担当：堀川諭）

【事前学習】当該範囲に関する教員からの指示を元に、授業において自分の考えを発表できるようまとめる。

【事後学習】授業の結果を踏まえて、事前学習で行った自身の考えを再度推敲する。

第9回 グローバル化とアイデンティティ（担当：堀川諭）

【事前学習】当該範囲に関する教員からの指示を元に、授業において自分の考えを発表できるようまとめる。

【事後学習】授業の結果を踏まえて、事前学習で行った自身の考えを再度推敲する。

第10回 メディア・コミュニケーションの様々な作用（担当：堀川諭）

【事前学習】当該範囲に関する教員からの指示を元に、授業において自分の考えを発表できるようまとめる。

【事後学習】授業の結果を踏まえて、事前学習で行った自身の考えを再度推敲する。

第11回 現代の映像メディア、通信メディア：（担当：堀川諭）

【事前学習】当該範囲に関する教員からの指示を元に、授業において自分の考えを発表できるようまとめる。

【事後学習】授業の結果を踏まえて、事前学習で行った自身の考えを再度推敲する。

第12回 文字と活字、メディアと権力（担当：堀川諭）

【事前学習】当該範囲に関する教員からの指示を元に、授業において自分の考えを発表できるようまとめる。

【事後学習】授業の結果を踏まえて、事前学習で行った自身の考えを再度推敲する。

第13回 グローバル化と格差社会（担当：堀川諭）

【事前学習】当該範囲に関する教員からの指示を元に、授業において自分の考えを発表できるようまとめる。

【事後学習】授業の結果を踏まえて、事前学習で行った自身の考えを再度推敲する。

第14回 オルタナティブな世界の構築（担当：田畑恒平）

【事前学習】当該範囲に関する教員からの指示を元に、授業において自分の考えを発表できるようまとめる。

【事後学習】授業の結果を踏まえて、事前学習で行った自身の考えを再度推敲する。

オンデマンド回 異文化間理解について（担当：田畑恒平）

【事前学習】moodleにアップする資料を通読の上、異文化間理解について自分の考えを発表できるようまとめる。

【事後学習】講義の結果まとめた上で、事前学習の考えを再考する。

【事前・事後学習に際して】

各授業に対する事前・事後学習は約180分を目安とし、合計で2,700分程度とします。上記の内容を確認して、しっかり事前・事後学習を行ってください

授業の到達目標／Expected outcome

- ・社会や世界との関わりの中で、他者との適切なコミュニケーションを行えるようになる。
- ・外国語やその背景にある文化の多様性及び異文化コミュニケーションの現状と課題を学び、広範な視野と多様な価値観を受け入れられるようになること。
- ・英語が使われている国、地域の文化を通じて、英語による表現力への理解を深め、意思疎通できるようになること。

身につく資質・能力／Competencies to be attained

- ・思考力
 - ・倫理性
- 専門知識・専門技能
【外国語学部 ヨーロッパ言語学科】
- ・異文化理解
 - ・言語的技能

履修上の注意／Special notes, cautions

- ・質問は積極的にすること。
- ・出席回数が全講義の2／3以上ない場合は、成績評価しない。

評価方法／Evaluation

受講状況（50%）、習熟度確認の中間レポート（20%）、まとめの試験（30%）
上記結果を総合し判断する。
小テストの結果については各教員が自身の授業回でコメント・フィードバックを行う。

教 材／Text and materials

授業で使うテキストは随時配布する。

参考書

池田理知子 編著『よくわかる異文化コミュニケーション』ミネルヴァ書房

質問や相談の方法／Instructor contact

この授業は2人の教員によるオムニバス型講義である。

授業に関する質問や相談などがある場合はオフィスアワーを活用すること。

各教員のオフィスアワーは以下の通り。

【堀川】

木曜2限 第2研究室棟 第529研究室

(※詳細はオフィスアワーの掲示を確認)

質問や相談はオフィスアワーに限らず、いつでも受け付けます。積極的に声をかけてください。

【田畑】

月曜2限 (10:45~12:15) @S211スタジオ

上記以外の場合は連絡先: ksu.tahata@gmail.comまでメールの上アポイントメントをとること。